

上関大橋の損傷に係る 今後の対応

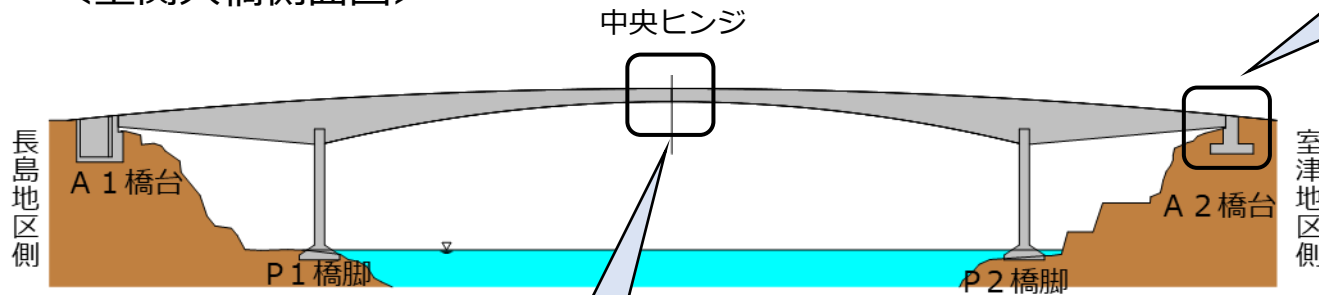
令和3年8月10日（火）



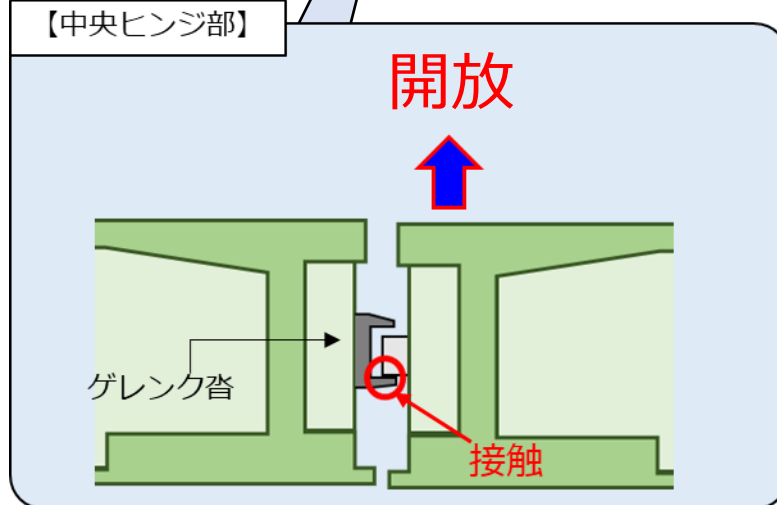
1) 本復旧対策(工法)について

上関大橋復旧検討会議の提言を受け、グラウンドアンカーによる桁の再固定化工事を早期に着手し、令和4年3月迄に完了予定

<上関大橋側面図>



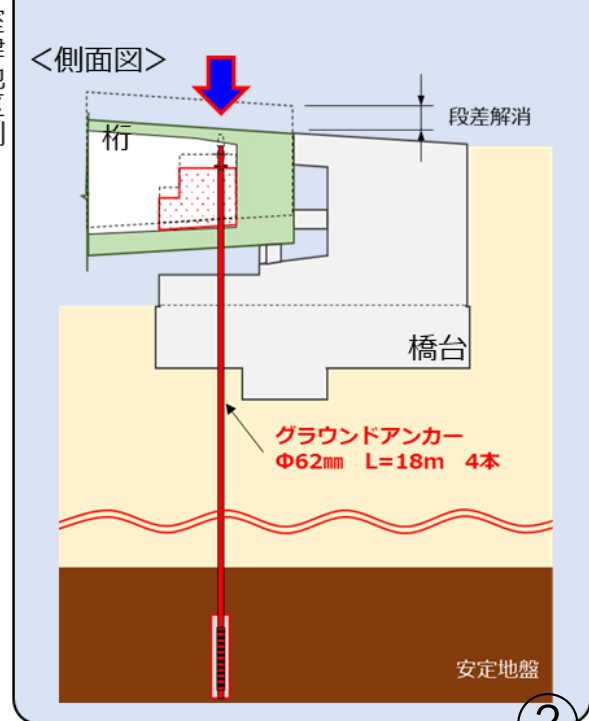
【中央ヒンジ部】



【A 2 橋台側の桁端部】

- グラウンドアンカーによる桁の再固定化
- 段差解消、中央ヒンジの応力開放

<側面図>



2) 上関大橋及び同種橋の維持管理(調査方針等)について

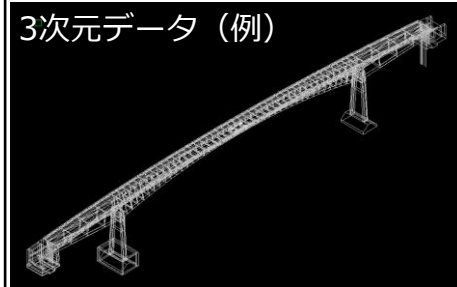
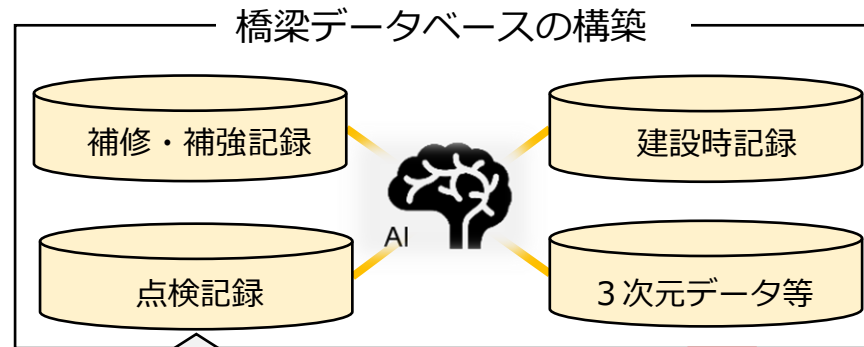
上関大橋復旧検討会議の提言を受け、

- 上関大橋は、新規に追加する部材には状態を確認する方法や、交換する方法などを検討し、必要に応じモニタリング機材を予め配置
- 青海大橋は、補強ケーブル等のバックアップ部材の設置や点検空間の確保
- 離島架橋、長大橋の重要な橋については、橋梁の点検・補修履歴等の過去の情報を関連付けした個別の点検計画を策定し、実施
- デジタル技術等を活用し、ひずみ計・変位計等による定期的な計測や橋梁データベースの構築 等

※岩国市管理の橋梁については市に必要な情報を提供



バックアップ部材の設置例



ひずみ計・変位計等による
定期的な計測

3次元データをベースにAIによる
損傷予測などデジタル技術を活用
しながら、維持管理の高度化を図る ③